

2018 年度 (平成30 年度) 学校評価自己評価表

神辺	中学校区	校番 80	福山市立	道上小	学校
最終更新日		2019年(平成31年) 2月 1日			

I 福山市 ミッション 福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。  
 ビジョン 「福山100NEN教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「21世紀型“スキル&倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

II 中学校区

前年度学校関係者評価の主な内容 <ul style="list-style-type: none"> <li>課題を教師と児童生徒が共有して取組むことで、「主体的な学び」につながる授業になってきている。</li> <li>学校行事などの取組を、積極的に地域に発信し、自己肯定感、自己有用感を高めてほしい。</li> <li>教員が具体的な取組を組織的に行い、めざす子ども像を育成してほしい。</li> </ul>	児童生徒の現状 <ul style="list-style-type: none"> <li>学習する中で、自分の考えや思いを出すことが十分でない。</li> <li>学校での学びが、日常生活で生きた力となって活用されていない。</li> <li>場や時、相手を意識した「かわりスキル」が低い。</li> </ul>	育成する力 <small>(21世紀型“スキル&amp;倫理観”)</small>	A コミュニケーション	B 人としての思いやり	
		めざす子ども像 <small>(義務教育修了時の姿)</small>	あたりまえのことを ひたむきにやりきる子		
		中学校区として統一した取組等	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童生徒が、授業での学びを日常の様々な場面で活用し、行動化できるようになる。</li> <li>児童生徒が、自己肯定感・自己有用感を高める。</li> <li>校種・教科をこえた合同授業研究を行う。</li> </ul>		

III 自校

ミッション		社会に貢献する人づくり				
学校教育目標		豊かな心を持ち 共に高まり合う 子どもの育成				
現状		育成する力 <small>(21世紀型“スキル&amp;倫理観”)</small>	A コミュニケーション力	B 人としての思いやり	C 能動的に動くことができる力	
<児童生徒> <ul style="list-style-type: none"> <li>習得した知識や技能を、活用する力が十分ではない。</li> <li>自己肯定感が低い児童が固定化している傾向にある。</li> </ul> <授業> <ul style="list-style-type: none"> <li>課題意識をもち、考えを広げたり理解を深めたりする授業づくりが必要である。</li> <li>児童の学習状況を把握し、個に対応した授業実践を行い、学力向上につながる授業づくりが必要である。</li> </ul>	めざす子ども像	1・2年生	人の話をしっかり聴くことができ、自分の思いを話すことができる。	友達の頑張りや良いところを見つけることができる。	目標をもって最後まで力いっぱいやりきることができる。	
	3・4年生	自分の考えをもち、筋道立てて分かりやすく伝えることができる。	一人ひとりの違いを理解し、受け入れることができる。	課題解決に向けて粘り強く取り組み、次につながる振り返りができる。		
	5・6年生	相手の意図をつかみながら聴き、目的や意図に応じて適切に話すことができる。	自分と異なる意見を受け入れ、考えを広げることができる。	課題解決に向けて、自分から進んで調べたり、新たな課題を見つけようとしていたりすることができる。		
		研究	教科等	算数科、音楽科		
			主題・内容等	主体的に学ぶ子どもの育成 ～学習形態を工夫した『学び合い』のある学習をめざして～		
		めざす授業の姿	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童が自分の考えをもち、友だちと関わりながら、学び合うことができる授業</li> <li>児童が意欲的に考えたくなる課題が明確に設定されている授業</li> <li>児童が達成感や成長を実感し、自覚することができる授業</li> </ul>			

Ⅳ 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

							福山市立		道上小		学校				
年 目	中期経営目標	重 点	分 類	短期経営目標	目標達成に向けた取組	評価指標	中間評価（10月1日）			最終評価（2月末）					
							口指標に係る取組状況	フォ メ タ 評 価	達 成 評 価	改善方策	口指標に係る取組状況 ◎短期（中期）経営 目標の達成状況	フォ メ タ 評 価	達 成 評 価	結 合 評 価	改善方策
2	各種調査において県・国の平均を上回る学力をつける。	★	新規	標準学力調査において全国平均を上回る観点を88%以上にする。	基礎基本の学力の定着を図るためのチャレンジタイム等の充実を図る	毎月の国語「言語」算数「技能」において単元末テストの平均を88点以上にする	・単元末テストの全学年の平均点は、国語「言語」85点、算数「技能」85点で、国語・算数共に目標を3点下回った。	3	3	・テストの結果から、各学年の重点項目を設定し、チャレンジタイムで取り組んでいく。 ・チャレンジタイムを複数体制で行う。	□テストの結果をもとに学年の重点項目を設定し、取り組んだ。小テストを繰り返し行ったり、目標点数を設定したりするなど、児童の実態に応じた取り組みを行った。 ◎単元末テストの平均点は、国語「言語」85.5点、算数「技能」85.8点であった。	4	3	4	児童の実態を把握し、実態に応じた指導を行う。取り組みを計画的に行うことや継続して取り組むことを徹底していく。
				算数科を中心とした「学び合い」のある授業づくりを行う。	教え合い、話し合いを大切に授業を展開する。	学び合いの質を高めるために毎時間対話（ペア・グループ）を入れた授業に取り組む。（実施率100%）	・学び合いの質を高めるために対話を取り入れた授業の実施率は、97% ・全体研、低・中・高学年部での部内研でも、「学び合い」のある授業を視点に研修を行うことができた。	4	3	・対話を設定した場面では、対話の質を高めるために、相手が分かる説明をすること、分からないことは聞くようにすることを意識させる。 ・対話の中で、比較・統合・検討を取り入れていく。	□「学び合い」のある学習の質を高めるために対話を取り入れ、相手に分かりやすい説明ができるように指導することができた。 □授業研究でも毎回、「学び合い」のある授業を視点に研修を行い、教職員の意識も高まった。 ◎対話を取り入れた授業の実施率は、98%	4	3	4	発達段階に応じた「学び合い」のスタイルを設定する。【低学年：気づきを出し合い対話によって解決の見通しを持たせる】【中学年：グループの全員が納得できるようにグループ学習を行う】【高学年：グループ学習だけで終わらせず、比較・統合・検討を取り入れた全体交流を行う】
3	児童の自己肯定感を高める。	★	継続	「自分には良い所がある」に対する肯定的評価を前年度平均より2%上げる。	児童がお互いの良さを認め合う場を多く設定し、友達の良い所を見つけ、交流し合う。	「自分には良いところがある」児童の割合を87%以上にする。	・評価指標に係る肯定的評価85.0% ・児童の自主・自立を意図した生徒指導規程の見直しに取り組んだ。 ・学年の高まりを朝会の時間に発表した。 ・児童会による各種表彰を行った。	3	3	・学校をさらによくすることを意識した児童会活動を行う。 ・縦割り掃除など異年齢集団による活動の充実を図る。 ・児童会役員の公約を達成させるなど児童主体で生徒指導規程の見直しをする。	□児童会や委員会の活動で、挨拶、掃除、遊びについて、児童が工夫した主体的な取組が活性化している。 □生徒指導規程の見直しでは、児童発のアイデア、きまりの意味理解を重視して進めた。 ◎評価指標の肯定的評価84.8%	4	3	3	児童の主体的な活動や異年齢間のつながりを重視した活動の充実を継続して進めていくことにより、自己有用感、肯定感、所属感の伸長を図っていく。（児童会活動の充実、改訂した生徒指導規程を根拠にした取組等）
3	心身ともに持続力が備わった児童を育成する。		継続	新体力テストにおいて、県平均を上回る種目率を80%以上にする。	外遊びテートを設けて、いろいろな遊びを紹介し、脚力、瞬発力を高めさせる。がんばりカードの取組内容を全校で統一して、準備運動で行う。	走のセット運動を実施している学級の割合を100%にする。体育の準備運動の中で頑張りカードの取り組みを実施している学級の割合を100%にする。	・走のセット運動実施100% ・頑張りカードの取り組み実施23% ・週1回の外遊びテートを実施した。 ・握力コーナーを設け、意欲的に体力作りに励む事ができた。 ・1学期は、頑張りカードを全校で統一した。2学期以降は、学年の課題に合わせた内容で取り組みを行っている。	3	3	・体育の準備体操の流れを掲示し、各学年の課題項目を改善できるよう意識して取り組む。 ・体育委員主体で体力作りキャンペーンを行い、楽しみながら走ることで体力向上を促す。 ・児童が主体的に取り組むことができる体力作り環境を整える。	□準備体操の流れを掲示し、視覚化することで意識的に取り入れる学年が増えた。 □体力測定キャンペーンや、速く走るコツガイドブックの作成を行い、子どもたちが主体的に体力作りを行える環境づくりを行った。 ◎走のセット運動実施率96%◎頑張りカードの取り組み実施率100%	4	3	4	児童が体力づくりを主体的に取り組むことができる環境を部全体で考えていく。 さらに学校全体で取組みの実施を徹底していく。

3	信頼される学校づくりのために、組織的な取組を進める。	★	継続	福山100NEN教育アンケート「仕事に意義とやりがいを感じている」教職員の割合を75%以上にする。	学校評価自己評価表をもとにした学年経営案、分掌行動計画シートを作成し、月末に進捗状況を把握する。	学年進捗表・分掌行動計画シートによる月末・学期末の進捗実施率を80%以上にする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>「仕事に意義とやりがいを感じている」教職員の割合57.9%</li> <li>分掌の進捗実施率75.5%</li> <li>分掌シートを部会で定期的に確認し、学期末には全体交流を行った。</li> </ul>	3	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員全体で見通しを持って教育活動を行うために、各種締め切りや行事までのカウントダウンを見える化したり、気づきを声掛けしたりする。</li> </ul>	<p>□各種締切や行事への早めの取組みを意識することで、ほとんどの職員が提出期限を守れた。</p> <p>◎「仕事に意義とやりがいを感じている」教職員の割合57.9%（前回と同じ） 分掌の進捗実施率98%</p>	4	3	3	校務分掌の精選、再編を考える。効率的な教育活動を行えるように、各分掌部で見直しをする。
			継続	学校・家庭・地域が学校の取組を共有し、児童を育てる。	積極的に情報発信すると共に、保護者・地域の願いに迅速、適切に対応する。	保護者アンケート「学校の教育活動に満足している」の肯定的評価を90%以上にする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>「学校の教育活動に満足している」の肯定的評価92.7%</li> <li>学校便り・学年便り・学級便りで日々の様子を発信した。</li> </ul>	3	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き、各便りやHPで日々の様子を発信し、保護者・地域に学校の様子を伝える。</li> <li>保護者からの要望に対して、迅速に対応するとともに、報・連・相の体制を整え、確実に行う。</li> </ul>	<p>□各行事を「日々の様子」として、学校での活動がよく分かるように、HPにアップした。保護者の願いに応えられるよう素早く対応した。</p> <p>◎保護者アンケートでは、肯定的評価が94.1%と高く、前回に比べ1.4%上がった。</p>	4	4	4	学校便り、学年便り、学級便り、HPの中で、学校生活の様子が分かるように発信回数を増やしたり、書き方を工夫したりする。 報・連・相の体制が整ってきているので、最後の確認まで出来るようにする。

【プロセス評価の評価基準】

評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。

【達成度評価の評価基準】

評点	評価基準
5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。
4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。
3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。
2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。
1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。

【総合評価の評価基準】

評点	評価基準
5	100%以上の達成度 十分に目標を達成できた。
4	80%以上100%未満の達成度 概ね目標を達成できた。
3	60%以上80%未満の達成度 ある程度目標を達成できた。
2	40%以上60%未満の達成度 あまり目標を達成できなかった。
1	40%未満の達成度 目標を達成できなかった。